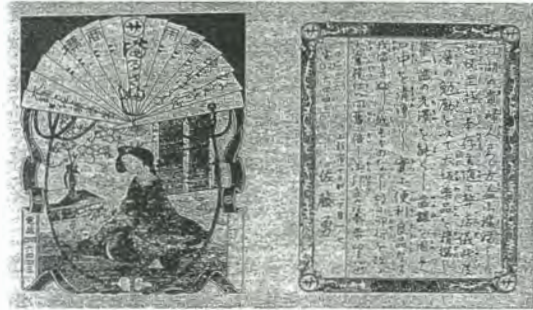


が出され、衰退の一途をたどりました。佐藤家のお歯黒「満るさ婦し」は、この時期に簡便お歯黒の一つとして製造され始めたもので、原料は五倍子・硫酸第一鉄・石灰が一定割合で用いられました。その後白い歯が広く大衆に迎え入れられた結果、お歯黒の化粧文化は消滅しました。すべての業者が廃業するなかで佐藤家のみが商売を続け、化粧としての使命を終えたお歯黒は黒豆料理の添加剤として製造され、お歯黒製造技術を伝えてきました。



お歯黒袋 表(左)裏(右)

【教育】

国定第四期修身教科書挿絵原画

昭和8年から15年にかけて発行・使用された国定第四期の『尋常小学修身書』に掲載された挿絵の原画です。

明るい色刷りの表紙や挿絵が使われるようになったことが、この時期の修身教科書の大きな特徴の一つです。

この原画には、編集や割り付けのためのメモと一緒に作者名が書かれています。石井柏亭・和田三造・飛田周山・鱒崎英明・渡部審也・平田松堂・多田北鳥といった一流の画家たちが筆を執っていたことがわかる貴重な資料です。



尋常小学修身書 巻二十四 エンソク



挿絵原画(和田三造・石井柏亭筆)

主な展示資料

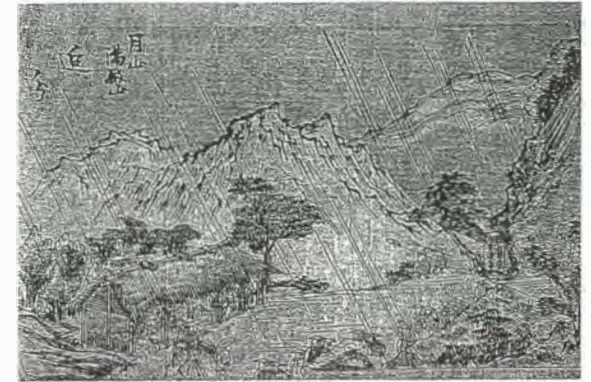
資料名	点数	備考
山形県内産鉱物		
方鉛鉱, 黄銅鉱, 閃亜鉛鉱, 孔雀石, 菱マンガン鉱 ほか	10	本館所蔵
磁鉄鉱, 赤鉄鉱, 黒曜石	7	阿部 龍市氏 寄贈
山形県産貝類化石		
エゾバイ, オウナガイ ほか	8	阿部 弘也氏 寄贈
山形県で注目される植物		
ハシドイ ほか	10	吉野 智雄氏 寄贈
ザオウアザミ ほか	2	志鎌 節郎氏 寄贈
オオタカネバラ ほか	2	石山美恵子氏 寄贈
スハマソウ ほか	10	大類 貞夫氏 寄贈
ヒメサユリ ほか	13	佐藤 滋子氏 寄贈
ヤマトミクリ ほか	2	沢 和浩氏 寄贈
コウゲイスカズラ ほか	15	高橋 信弥氏 寄贈
ミチノクフクジュソウ ほか	13	鈴木 暁氏 寄贈
ウゴシオギク	1	土門 尚三氏 寄贈
アラカワカンアオイ ほか	4	加藤 信英氏 寄贈
ミズメ ほか	2	山田 寛爾氏 寄贈
ドウモンワニゲチソウ	1	石栗 正人氏 寄贈
帰化植物参考標本	11	
淡水産貝類標本		
ヨコハマシジラガイ ほか	30	本館所蔵
鳥類剥製標本		
ハシブトウミガラス ほか	2	斎藤一男氏寄贈ほか
昆虫標本(トンボ類77種)	606	本館所蔵
小山崎遺跡出土遺物		本館発掘調査
注口土器, 土偶, 耳栓	10	
義川筆「湯殿山道中一覽版画」	18	本館所蔵
合羽・編笠・小田原提灯 ほか	10	本館所蔵
お歯黒製造道具一式	15	佐藤 勇氏 寄贈
国定第四期修身教科書挿絵原画	36	本館所蔵

平成11年度

館蔵品展

1999年
12月18日(土)～3月19日(日)

山形県立博物館



湯殿山道中一覽版画 月山湯殿山道分

開催にあたって

この企画展は、本館が所蔵する膨大な資料のうち整理が終了した資料群の紹介や話題性のある新収蔵品の紹介など、本館所蔵の未公開資料を中心に展示し、博物館資料とその収集活動についての理解を図ることを目的として開催するものです。

本展を開催するにあたり、資料をご寄贈いただいた方々や収集活動にご協力いただいた方々に、厚くお礼申し上げます。

館長 安孫子 豊

展示解説

【地学】

山形の鉱山と鉱物

「黄金咲く出羽の国」と呼ばれ、山形は古来豊富に金・銀・銅を産したと口伝されます。中世～近世で特に大規模な鉱山として有名なものは、現在の大蔵村の永松銅山と尾花沢市の延沢銀山です。特に延沢銀山は寛永年間に幕府天領となつて、人口が30万人に達したと古文書に記されるほど栄えました。

明治以降、県内各地で次々に金属鉱山が開発され、その数は大小100以上あったといわれます。山形県の鉱床は大部分が、新第三紀中新世の時代（約1000万年前）に、海底火山の活動にともなつて形成されたものです。



方鉛鉱（朝日村大泉鉱山）

鉱山は主として銅・鉛・亜鉛の鉱物を採掘しましたが、モリブデン・ピスマス・マンガンなどを含む珍しい鉱物を産する鉱山もありました。また鉱石中に金・銀の含有量の多い鉱山は、金山や銀山としても栄えました。しかし、経済的な理由から、県内の金属鉱山は現在すべて閉山しています。

【植物】

山形県で注目される植物

県内の植物相を研究している方々から、今年もたくさんの標本を寄贈していただきました。その中から注目されるものを約80点展示します。

新種として発表されたザオウアザミと分布が稀な植物、国立科学博物館標本庫からいただいた帰化植物の参考標本が中心になります。

ザオウアザミ

蔵王山のブナ帯上部以上の地域の固有種として、今年（1999）の秋に発表されたもの。分布の広がり調査は、今後の課題。

国立科学博物館標本庫発行 帰化植物参考標本

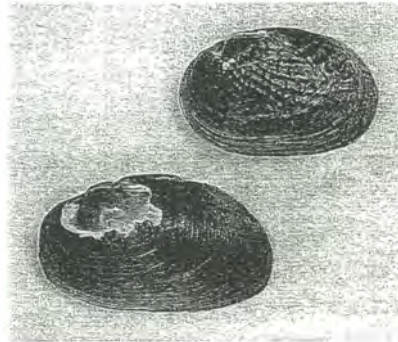
国内で発見された帰化植物のうち、比較的最近発見されたもの。これから山形県内でも見つかる可能性があるため、まず、同定の際の資料とするために、国立科学博物館から参考標本として贈られたものです。参考標本は各県博物館に贈られましたが、帰化植物の急激な増加をものがたっているとも言えます。

【動物】

淡水産貝類標本 マツカサガイなど淡水にすむ二枚貝の仲間は、タナゴ類がその体内に卵を産むことで知られています。近年はこれら淡水産貝類の生息地が激減し、タナゴ類の繁殖にも影響を与えています。

昨年（1998）マツカサガイの1つの型と考えられていた貝が別種と確認され、ヨコハマシジラガイと命名されました。鈴鹿山脈を境として東日本に分布するといわれていますが詳細は不明です。

標本整理を兼ねて所蔵標本を再検討したところ、マツカサガイと記載された中に本種が混じっていることが確認できました。また、生息地のいくつかでは両種が混生していることも確認しています。



ヨコハマシジラガイ(左下)とマツカサガイ(右上)

【考古】

小山崎遺跡出土の土器・土製品

遺跡近傍に広がる鳥海山の美しい山裾や伏流水を唯一水源とする牛渡川などの清流は、この遺跡の立地環境のすばらしさを雄弁に語っています。

今回の展示で紹介する土器や土偶などの出土品は、平成10年および平成11年に本館が行った第2次、第3次の発掘調査で出土したうちの10点です。内訳は、縄文後期や晩期といわれる時代の代表的な器種の一つとなる注口土器2点、まじないや祀りに使われ

たと考えられる土偶など7点、装飾品である耳飾1点です。

これら資料は、本遺跡出土遺物のごく限られた一部にすぎませんが、速報的に紹介し本遺跡の一端にふれていただければ幸いです。なお、詳細については継続する調査や出土品の整理が終了した段階で順次公開したいと考えています。



注口土器出土状況（1999.7.30）

【歴史】

義川筆「湯殿山道中一覽版画」

本館所蔵の長井政太郎旧蔵文書資料の中に、文政3年（1820）山形の狐月堂から発行された版画があります。この版画は、山形市旅籠町に生まれた宇野義川（1779～1852）の筆によるもので、その画風は極めて写実的です。木版刷り淡彩の小型版画で20数枚からなる組物ですが、その内の18枚を本館が所蔵しています。

宇野義川は、藤沢祐川（山形市宮町生、狩野派）に師事し、数多くの俳画や戯画のほか大和絵などの作品も多く残しています。

版画は、上の山から湯殿山にいたる路程の名所・旧蹟・宿場の様子を風景を中心に町の賑わいを表現しています。特に文化・文政期は、山形県において、置賜・最上・庄内の観音参詣が盛んで、観光的にも大いに賑わった時期であります。したがって、版画はお土産物としても大いにヒットした商品の一つでした。

【民俗】

お歯黒製造道具一式

山形市十日町で「お歯黒」を製造していた佐藤 勇氏より、看板・薬研・匙・分銅秤・お歯黒袋などの製造道具一式を寄贈していただきました。佐藤家は、八代源吾氏が明治時代初期に光明寺の寺医よりお歯黒製造の秘伝を授けられて製造販売を始め、その後現当主勇氏まで4代にわたって秘法を受け継いできました。

お歯黒は最も古い化粧とも言われ、江戸時代までは盛んに行われていたましたが、明治の文明開化とともに古い因習として禁止令